

インテル® System Studio 2018 リリースノート

2017 年 11 月 29 日

目次

1	概要.....	2
2	システム要件.....	2
3	新機能.....	2
4	製品の内容とクロスリファレンス.....	2
4.1	インテル® Software Manager.....	4
5	テクニカルサポートとドキュメント.....	5
5.1	テクニカルサポート.....	5
5.2	ドキュメントの場所.....	5
6	インストールの注意事項とログファイル.....	6
7	既存の問題と制限事項.....	7
7.1	一般的な既存の問題と制限事項.....	7
7.1.1	インストール先フォルダーの長さは 35 文字まで.....	7
7.1.2	プロキシサーバー経由でオンライン・インストーラーを実行すると失敗する.....	7
7.1.3	Internet Explorer* で HTML ドキュメントの一部のハイパーリンクが動作しない.....	7
7.2	コンポーネント別の問題と制限事項.....	8
8	権利の帰属 (英語).....	11
9	著作権と商標について.....	12

1 概要

このドキュメントでは、**インテル® System Studio 2018** 製品の概要を説明します。新機能と変更点、リリース履歴、インストールの追加情報、記事やホワイトペーパーへのリンクが含まれています。

インテル® System Studio には、ライセンスの異なる 3 つのエディション (Composer Edition、Professional Edition、Ultimate Edition) があります。各エディションは、Linux* および Windows* ホスト向けの個別のダウンロード・パッケージで構成されます。

対象者は、Linux*、Windows*、macOS* ホスト環境で組み込み Linux*、Wind River* Linux*、Android* ターゲット向けの開発を行っている、パフォーマンス指向の C/C++ 組み込み/モバイル/ウェアラブル/IoT 開発者です。詳細は、「製品の内容とクロスリファレンス」セクションで、使用しているインテル® System Studio のエディションに関連するドキュメントを参照してください。

以前のリリースの製品情報および評価ライセンス (30 日間) のリンクは、インテル® System Studio の製品ページ (<https://software.intel.com/intel-system-studio> (英語)) を参照してください。

製品のライセンス情報は、<https://software.intel.com/articles/end-user-license-agreement> (英語) を参照してください。

2 システム要件

システム要件は、<https://software.intel.com/articles/intel-system-studio-system-requirements> (英語) を参照してください。

3 新機能

新機能は、<https://software.intel.com/articles/whats-new-in-intel-system-studio> (英語) を参照してください。

4 製品の内容とクロスリファレンス

次の表は、インテル® System Studio 2018 に含まれているインテル® ソフトウェア開発ツールのバージョンを示したものです。

コンポーネント	バージョン
Composer Edition	
インテル® C++ コンパイラー	18.0 Update 1
インテル® インテグレートッド・パフォーマンス・プリミティブ (インテル® IPP)	2018 Update 1
インテル® マス・カーネル・ライブラリー (インテル® MKL)	2018 Update 1
インテル® スレッディング・ビルディング・ブロック (インテル® TBB)	2018 Update 1
インテル® データ・アナリティクス・アクセラレーション・ライブラリー (インテル® DAAL)	2018 Update 1
GNU* GDB およびソース	7.12
インテル® Debugger for Heterogeneous Compute	2018
Eclipse* IDE	Neon
IoT 接続ツール (UPM/MRAA/クラウドコネクタ)	2018
MRAA IO コミュニケーション・レイヤー	1.8.0
UPM センサーおよびアクチュエーター・ライブラリー	1.5.0
サンプル・アプリケーション	N/A
Docker* ベースのアプリケーション・ワークフロー	2018
Professional Edition	
Composer Edition	N/A
インテル® Inspector	2018 Update 1
インテル® VTune™ Amplifier - パフォーマンス・スナップショット機能	2018 Update 1
電力解析	N/A
インテル® SoC Watch for Windows*	2.4.0
インテル® SoC Watch for Linux*	2.4.0
インテル® SoC Watch for Android*	2.4.0
インテル® Graphics Performance Analyzers	2017 R3
Ultimate Edition	
Professional Edition	N/A
インテル® System Debugger (システムデバッグ/システムトレース)	2018
インテル® Debug Extensions for WinDbg	2018

インテル® C++ コンパイラー 18.0 Gold Release から、インテル® Cilk™ Plus は非推奨になりました。将来のバージョンで削除される予定です。OpenMP* またはインテル® TBB への移行方法は、この記事 (<https://www.isus.jp/products/c-compilers/migrate-application-to-use-openmp-or-tbb-instead-of-cilk-plus/>) を参照してください。

個々のコンポーネントのリリースノートは、メインのリリースノートのページ (<https://software.intel.com/en-us/articles/intel-system-studio-release-notes> (英語)) からリンクされています。

このドキュメントでは、製品がインストールされている場所を <INSTALL_DIR> と表記しています。

<INSTALL_DIR> のデフォルトの場所は次のとおりです。

Windows* ホスト:

Windows* ターゲット: C:\Program Files (x86)\IntelSWTools

Linux* ターゲット: C:\IntelSWTools\system_studio_2018

Linux* ホスト:

sudo/root インストール: /opt/intel/system_studio_2018

macOS*: /opt/intel/system_studio_2018

4.1 インテル® Software Manager

インテル® Software Manager (インテル® System Studio 製品とともに自動的にインストールされます) は、グラフィカルなツールで、製品のアップデート、現在のライセンスの状態、インストールされているインテル® ソフトウェア開発製品のニュースなどの情報を提供します。

次の場所から手動で開始することもできます。

- Linux*: /opt/intel/ism/ism
- Windows* 8.x/10: [スタート] 画面の Intel® Software Manager (インテル® Software Manager) アプリケーションを起動
- Windows* 7: [スタート] > [Intel System Studio 2018 (インテル(R) System Studio 2018)] > [Intel Software Manager (インテル(R) Software Manager)]

このリリースのインテル® Software Manager は、既存のインテル® Software Manager に代わり、システムにインストールされているインテル® ソフトウェア開発製品のライセンスを管理します。

インテル® System Studio をインストールすると、インテルは、インストール状況および環境に関する情報を収集します。収集される情報は匿名の情報で、インテル社内でのみ利用され、外部と共有されることはありません。収集される情報およびオプトアウト方法の詳細は、<https://software.intel.com/en-us/articles/data-collection> (英語) を参照してください。

将来の製品設計に役立てるため、製品の使用状況に関する匿名の情報をインテルに提供することもできます。このオプション (インテル® ソフトウェア向上プログラム) は、デフォルトでは選択されません。インストール中またはインストール後に参加することができます。また、いつでも参加を取りやめることができます。詳細は、<http://intel.ly/SoftwareImprovementProgram> (英語) を参照してください。

5 テクニカルサポートとドキュメント

5.1 テクニカルサポート

登録を行うことで、サポートサービス期間中 (通常は 1 年間)、製品アップデートと新しいバージョンの入手を含む無償テクニカルサポートが提供されます。

この製品に関する問題を送信するには、[Online Service Center](#) (英語) で製品名として **Intel System Studio** を検索し、サポートリクエストを送信してください。

また、[インテル® System Studio ユーザーフォーラム](#) (英語) で質問を投稿したり問題を確認することもできます。

テクニカルサポートに関する情報は、<https://software.intel.com/intel-system-studio-support> (英語) を参照してください。

注: 販売代理店がこの製品のテクニカルサポートを提供している場合は、インテルではなく販売代理店にお問い合わせください。

5.2 ドキュメントの場所

追加情報およびパッケージのダウンロードは、<https://www.isus.jp/intel-system-studio/> を参照してください。

ドキュメントは次の場所で参照できます。

- [オンラインの製品ドキュメント・ページ \(英語\)](#): 製品のリリースノート、新機能および主な記事へのリンクが含まれています。また、ドキュメントの更新情報も提供されています。
- [入門ガイド \(英語\)](#)
- オフラインのドキュメント: ドキュメントは製品のインストール・ディレクトリー以下 (<INSTALL DIR>/documentation_2018/) に含まれています。
- [インテル® System Studio 2018 Gold ユーザーガイド: コンテナでビルドして Linux* で実行する C/C++ プロジェクト \(英語\)](#)

6 インストールの注意事項とログファイル

インテル® System Studio 2018 をインストールするための必要条件は、[システム要件](#) (英語) を参照してください。

ツールのインストール時に問題が発生した場合は、インストーラーの README を参照してください。

インストールのログファイル (問題を報告するときに役立ちます) を確認する場合は、次の場所を参照してください。

Linux* ホスト/Linux* ターゲット:

インテル® System Studio インストーラーは、ログファイルを user と root の /tmp に書き込みます (インストーラーを sudo で実行した場合)。ログファイルの名前は intel.pset で始まり、タイムスタンプで終了します。拡張子は .log です。

Windows* ホスト/Linux* ターゲット:

インテル® System Studio インストーラーは、ログファイルを %TEMP%\Intel に書き込みます。ログファイルの名前は intel.pset で始まり、タイムスタンプで終了します。拡張子は .log です。

Windows* ホスト/Windows* ターゲット:

インテル® System Studio インストーラーは、ログファイルを %TEMP%\pset_tmp_ISS2018WT_[username]\ に書き込みます。ログファイルは、収集日と一致する名前のディレクトリー以下の log ディレクトリーに作成されます。拡張子は .log です。

macOS* ホスト/Linux* ターゲット:

インテル® System Studio インストーラーは、ログファイルを user と root のシステム一時ディレクトリー (echo \$TMPDIR) に書き込みます (インストーラーを sudo で実行した場合)。ログファイルの名前は intel.pset で始まり、タイムスタンプで終了します。拡張子は .log です。

7 既存の問題と制限事項

個々のインテル® System Studio コンポーネントの既知の問題は、各コンポーネントのリリースノート (<https://software.intel.com/en-us/articles/intel-system-studio-release-notes> (英語)) を参照してください。

7.1 一般的な既存の問題と制限事項

7.1.1 インストール先フォルダーの長さは 35 文字まで

インストール先フォルダー (このドキュメントでは <INSTALL_DIR> と表記しています) の長さは 35 文字までです。デフォルトのインストール先フォルダーは次のとおりです。

Windows* ホスト – Windows* ターゲット: C:\Program Files (x86)\IntelSWTools

Windows* ホスト – Linux* ターゲット: C:\IntelSWTools\system_studio_2018

Linux* ホスト – Linux* ターゲット: /opt/intel/system_studio_2018

macOS* ホスト – Linux* ターゲット: /opt/intel/system_studio_2018

デフォルト以外のインストール先フォルダーを指定する場合は、この 35 文字の制限を超えないように注意してください。

7.1.2 プロキシサーバー経由でオンライン・インストーラーを実行すると失敗する

プロキシサーバー経由で Windows* ターゲットパッケージのオンライン・インストーラーを実行すると、エラー "Connection to the IRC site cannot be established (IRC サイトへの接続を確立できません)" が出力され、インストールに失敗することがあります。プロキシ設定問題を解決できない場合は、(異なるコンピュータから) フルパッケージをダウンロードし、ダウンロードした .exe ファイルを実行してインストーラーを起動する必要があります。

7.1.3 Internet Explorer* で HTML ドキュメントの一部のハイパーリンクが動作しない

Google Chrome* や Mozilla* Firefox* などの別のブラウザを使用するか、リンクを右クリックして [ショートカットのコピー] を選択し、リンクを新しい Internet Explorer* ウィンドウに貼り付けてください。

7.2 コンポーネント別の問題と制限事項

コンポーネント	説明	意味	回避方法
Eclipse* ベースの IDE	Red Hat* および CentOS* ホストで、インテル® System Studio IDE のようこそ画面が空で表示される、反応しない、またはエラーメッセージが表示されます。	ようこそ画面の内容を読むことができません。	bash シェル (端末ウィンドウ) で次のコマンドを使用して "epel-release" パッケージと "webkitgtk" パッケージをインストールします。 \$ sudo yum install epel-release \$ sudo yum install webkitgtk
Eclipse* ベースの IDE	[Project to build and run on this Linux operating system (この Linux* オペレーティング・システムでビルドして実行するプロジェクト)] オプションを使用してプロジェクトを作成するときに GCC を選択すると、ビルド・プロファイルに誤って設定された最適化レベルとデバッグオプションが含まれます。	ビルドしたアプリケーションのデバッグが困難または不可能になり、リリースビルドにデバッグオプションが指定されません。	[デバッグ] ビルド構成の最適化レベルを -O0 に変更して、[リリース] ビルド構成の -g オプションを削除します。あるいは、[Tool Chain Editor (ツール・チェーン・エディター)] プロパティで各ビルド構成を選択し、異なるツールチェーンに切り替えた後、元のツールチェーンに戻します (プロジェクトを右クリック > [Properties (プロパティ)] > [Tool Chain Editor (ツール・チェーン・エディター)] > [Current toolchain (現在のツールチェーン)])。
GNU* GDB	デフォルトでは、リバース・デバッグ・オプションを有効にすると、[Function call history (関数呼び出し履歴)] が空になります。	[Function call history (関数呼び出し履歴)] ウィンドウの履歴を見ることができません。	[Debugger Console (デバッガーコンソール)] ウィンドウからデバッグを開始した後、「record btrace pt」コマンドを手動で送ります。
インテル® DAAL	インテル® DAAL Python* API (pyDAAL) はソースで提供されます。	ソースを Windows* でビルドすると、警告メッセージが表示されます。	警告を無視してください。このメッセージはクリティカルな問題ではなく、ライブラリーの機能に影響しません。
インテル® DAAL	ソースからビルドされたインテル® DAAL Python* API (pyDAAL) は、OS X* El Capitan (バージョン 10.11) では動作しません。	ソースからビルドされたインテル® DAAL Python* API (pyDAAL) を OS X* El Capitan (バージョン 10.11) で使用することはできません。	OS X* El Capitan で動作する、事前にビルドされた pyDAAL を含む Python* の Anaconda パッケージ (http://anaconda.org/intel/ (英語)) を入手してください。

インテル® System Debugger	新しい接続確立方法 (TCA) を使用して MinnowBoard MAX* と Intel Atom® プロセッサ Z3600 シリーズおよび Z3700 シリーズ - 2 コア (開発コード名 Baytrail) を接続すると問題が発生します。	新しい接続確立方法では、これらのターゲットをデバッグできません。	これらのターゲットをビルドするには、古い接続確立方法を使用して接続してください。
How-to-Code サンプル	How-to-Code サンプルは、すべてのターゲット・オペレーティング・システムで動作しません。	サンプルは、すべてのターゲット・オペレーティング・システムでコンパイルできず、ビルドエラーになります。	なし。これらのサンプルのアップデートは数週間/数カ月後に提供される予定です。
Docker* ベースのアプリケーション・ワークフロー	Docker* がインストール時に提供されません。	追加のセットアップを行わないと、これらのシステムではコンテナベースのプロジェクトの動作に失敗します。	次のいずれかの方法に従ってプロジェクトをビルドしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • https://software.intel.com/en-us/intel-system-studio-docker-install-windows (英語) • https://software.intel.com/en-us/intel-system-studio-docker-install-linux (英語) • https://software.intel.com/en-us/intel-system-studio-docker-install-macos (英語)
Docker* ベースのアプリケーション・ワークフロー	仮想マシン上へのインテル® System Studio のインストールは、Ubuntu* デスクトップ 16.04 Linux* ゲスト仮想マシンでのみサポートおよびテストしています。ほかのゲスト・オペレーティング・システム (Windows* および macOS*) はサポートおよびテストしていません。	インテル® System Studio の特定の機能 (Docker* およびインテル® VTune™ Amplifier など) は、すべての仮想マシン・マネージャー (VMM やハイパーバイザーなど) でサポートされていないか、デフォルトで有効でない低レベルの CPU 機能にアクセスする必要があります。	インテル® System Studio を、ゲスト VM 上ではなく、実際の Windows* または macOS* システムにインストールしてください。VM を使用する必要がある場合は、Ubuntu* 16.04 ゲスト VM を使用することを推奨します。[Nested Virtualization (仮想化のネスト)] を有効にして、最低 4GB の RAM を VM に割り当ててください。

<p>Docker* ベースのアプリケーション・ワークフロー</p>	<p>Windows* ホスト/Linux* ターゲットで、[Application Development (アプリケーション開発)] > [Project for building in a container and running on Linux (コンテナでビルドして Linux* で実行するプロジェクト)] ワークフローを使用して新しいプロジェクトを作成した場合、[Run As (実行)] メニュー (新しく作成したプロジェクトを右クリックして表示) に [Intel System Studio (インテル(R) System Studio)] および [Local C/C++ Application (ローカル C/C++ アプリケーション)] の 2 つのオプションが表示されます。</p>	<p>[Local C/C++ Application (ローカル C/C++ アプリケーション)] は、このプロジェクトの種類では有効でないため動作しません。</p>	<p>[Run As (実行)] メニューを使用する場合は [Intel System Studio (インテル(R) System Studio)] を選択してください。</p>
<p>Visual Studio*</p>	<p>一部のシステムでは、インテル® System Studio のインストールで Visual Studio* 2017 統合を選択すると、インストーラーがハングアップして失敗します。</p>	<p>エラーが表示されません。エラーやクラッシュなしでインストールが完了した場合でも、Visual Studio* 2017 への統合はインストールされません。</p>	<p>Visual Studio* 2017 バージョン 15.3.3 をインストールすると問題を回避できます。ほかの回避方法は、https://www.isus.jp/products/psxe/software-development-tools-vs2017-ide-issue/ を参照してください。</p>

8 権利の帰属 (英語)

This product includes software developed at:

The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

Portions of this software were originally based on the following:

- software copyright (c) 1999, IBM Corporation., <http://www.ibm.com>.
- software copyright (c) 1999, Sun Microsystems., <http://www.sun.com>.
- the W3C consortium (<http://www.w3c.org>) ,
- the SAX project (<http://www.saxproject.org>)
- voluntary contributions made by Paul Eng on behalf of the Apache Software Foundation that were originally developed at iClick, Inc., software copyright (c) 1999.

This product includes updcrc macro,
Satchell Evaluations and Chuck Forsberg.
Copyright (C) 1986 Stephen Satchell.

This product includes software developed by the MX4J project
(<http://mx4j.sourceforge.net>).

This product includes ICU 1.8.1 and later.
Copyright (c) 1995-2006 International Business Machines Corporation and others.

Portions copyright (c) 1997-2007 Cypress Semiconductor Corporation.
All rights reserved.

This product includes XORP.
Copyright (c) 2001-2004 International Computer Science Institute

This product includes software from the book
"Linux Device Drivers" by Alessandro Rubini and Jonathan Corbet,
published by O'Reilly & Associates.

This product includes hashtab.c.
Bob Jenkins, 1996.

9 著作権と商標について

本資料は、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとよらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

インテルは、明示されているか否かにかかわらず、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、特定目的への適合性、および非侵害性の黙示の保証、ならびに履行の過程、取引の過程、または取引での使用から生じるあらゆる保証を含みますが、これらに限定されるわけではありません。

本資料には、開発中の製品、サービスおよびプロセスについての情報が含まれています。本資料に含まれる情報は予告なく変更されることがあります。最新の予測、スケジュール、仕様、ロードマップについては、インテルの担当者までお問い合わせください。

本資料で説明されている製品およびサービスには、エラッタと呼ばれる不具合が含まれている可能性があります、公表されている仕様とは異なる動作をする場合があります。現在確認済みのエラッタについては、インテルまでお問い合わせください。

インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。詳細については、Intel.com を参照するか、OEM または販売店にお問い合わせください。

本資料で紹介されている資料番号付きのドキュメントや、インテルのその他の資料を入手するには、1-800-548-4725 (アメリカ合衆国) までご連絡いただくか、www.intel.com/design/literature.htm (英語) を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Atom、Cilk、VTune は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

© Intel Corporation.

最適化に関する注意事項: インテル® コンパイラーでは、インテル® マイクロプロセッサに限定されない最適化に関して、他社製マイクロプロセッサ用に同等の最適化を行えないことがあります。これには、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 2、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 3、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 3 補足命令などの最適化が該当します。インテルは、他社製マイクロプロセッサに関して、いかなる最適化の利用、機能、または効果も保証いたしません。本製品のマイクロプロセッサ依存の最適化は、インテル® マイクロプロセッサでの使用を前提としています。インテル® マイクロアーキテクチャーに限定されない最適化のなかにも、インテル® マイクロプロセッサ用のものがあります。この注意事項で言及した命令セットの詳細については、該当する製品のユーザー・リファレンス・ガイドを参照してください。

注意事項の改訂 #20110804